

和地ひとみレポート No.326

今年の市民意識調査報告書

どのような人でも共通の傾向の項目に注目すべき



■標本数を増やして実施

…毎年、市が実施している市民意識調査ですが、今年の2月15日～3月15日に実施された調査の報告書が完成しました。(今後、この内容は市のホームページにもアップされる予定です。)

…東大和市は第二次基本構想(平成14年～平成33年度)で示す将来の都市像である『人と自然が調和した生活文化都市 東大和』を実現するために「豊かな人間性と文化をはぐくむまちづくり」「健康であたたかい心のかよいあうまちづくり」「暮らしと産業が調和した活力あるまちづくり」「環境にやさしく安全で快適なまちづくり」「相互の理解と協力を支えられるまちづくり」の5つの基本目標定めており、この基本目標を実現するために、目標別に施策を設定して様々な事務・事業を展開しています。この市民意識調査は、市民の意識や行動、生活環境等を調査することで、市の取組に対する評価を検証することと、今後のまちづくりに調査結果を活かすことを目的として行われています。

…今年の調査は今年2月1日(金)現在における市内在住の18歳以上の市民を無作為層化抽出して実施。また、6回目となる今年の調査では、前回調査(平成30年2月実施)より標本数を2,000人から3,000人と市が増やしたため、回答者数も761人から1,121人と増えたとのことでした。

■調査内容は

…毎年実施される市民意識調査ですが、その設問については、定番的なものと、市が特に確認したい個別具体的な取組みについて設定されています。

今年の調査項目は以下の17項目となっていました。

- (1) あなた自身のことについて
- (2) 定住意向について
- (3) 東大和市の施策について
- (4) 生活環境について
- (5) 東大和市の行政サービス及び行財政運営の取組みについて
- (6) 広報広聴及び情報公開について
- (7) 子育て環境について
- (8) 公園の利用状況等について
- (9) 地域活動・地域コミュニティについて
- (10) 消費生活センターについて
- (11) 産業振興について
- (12) 家庭廃棄物について
- (13) ちょこバスについて
- (14) スマートフォン専用の観光・子育てアプリについて
- (15) 健康・医療について
- (16) 東大和元気ゆうゆう体操について
- (17) 東大和市のブランド・メッセージについて

■回答者と定住意向

…前述のとおり、今回の調査では1,121人の市民の方が回答を提出しています。その年齢や居住しているエリア等の背景は以下の通りです。

【性別】男性:504人(45%) 女性:605人(54%)

【年齢】

18～19歳	18人
20～29歳	62人
30～39歳	164人
40～49歳	215人
50～59歳	228人
60～64歳	114人
65歳以上	312人
無回答	8人

【職業】

自営業	64人
会社員・公務員	411人
アルバイト・パート	208人
主婦・主夫	181人
学生	35人
無職	186人
その他	24人
無回答	12人

【住んでいる地域】

芋窪・蔵敷地区	114人
奈良橋・湖畔・高木地区	125人
狭山・清水地区	126人
立野・上北台地区	122人
中央・南街地区	153人
仲原・向原地区	171人
清原・新堀地区	73人
桜が丘地区	228人
無回答	9人

…市民意識調査については、無作為抽出をしています。アンケート用紙が送られてきても、回答をしなければ調査結果に反映されません。上記の通り、今回の回答者については、年齢、住んでいる地域など様々です。今回の調査結果が“市民の総意”ということでは難しいかもしれませんが、ここで出てきた“傾向”については、重要視すべき事柄も多くありました。

…ちなみに、今回の調査結果の中で『家族構成』や『定住意向』について書かれた概要では、その内容は「回答者の属性で家族構成『親と子(2世代)』が49.0%で、前回調査よりも5.1ポイント減少、『夫婦のみ』が29.6%と前回調査よりも4.5ポイント増加。また、本人を含む家族に『小学校入学前の児童がいる』と回答した方の割合は9.3%と、前回調査よりも7.5ポイント減少。定住意向については、前回調査と同様『今の場所に住み続けたい』が6割を超え、年齢層が上がるほどその割合が高い傾向。また、居住開始時期が早いほど、定住意向が高い傾向がみられる。定住を望む理由としては『家や土地を持っているから』、『住み慣れているから』及び『周辺の居住環境がよいから』がいずれも4割台半ばと高くなっている。一方、転出を望む理由としては、『通勤・通学に不便だから』が2割台半ばと最も高く、次いで『愛着を感じないから』が1割台半ばとなっている。」とのこと。

(裏面に続く)

…年齢が上がり、住んでいる期間が長くなり、そのうえ、持ち家（一戸建て、マンション共に）であれば、定住意向は高くなるという当然の結果です。

■調査結果で気になった点は

…調査項目 17 個の回答については、様々なクロス分析なども行われ、その結果も細かく報告書には書かれていますが、特に顕著な傾向などについては、結果概要で示されています。その中で注目した結果は、以下の通りです。

◆東大和市の施策について

第四次基本計画の基本目標ごとの重要度をみると、「健康であたたかい心のかよあまちづくり」に対して、「重要と感ずる」が8割台半ばと最も高くなっている。満足度に関しては、「環境にやさしく安全で快適なまちづくり」に対して「満足している」が2割を超えて最も高く、「不満を感じている」を 6.6 ポイント上回っている。一方、「暮らしと産業が調和した活力あるまちづくり」は「不満を感じている」が「満足している」より 7.5 ポイント高い。各施策に対する評価をみると、「重要と感ずる」は、「保健・医療の充実」が 9 割を超え最も高く、次いで「ごみの減量とリサイクルの推進」が9割近く、「防災体制の推進」、「防犯体制の推進」、「高齢者保健福祉の推進」及び「社会保障の充実」がいずれも8割台半ばとなっている。

◆市の行政サービス及び行財政運営の取組みについて

市職員の接遇については、「そう思う」は「身だしなみがきちんとしている」が6割近くと最も高い。一方、「そう思わない」は「元気にあいさつしてくれる」が1割台半ばと最も高くなっている。

◆子育て環境について

東大和市の子育て環境に対する意見について、「そう思う」は「自然環境が良い」が6割台半ばと最も高く、次いで「治安が良い」が5割近く、「東大和市は「子育てしやすいまち」だと思う」が4割を超えている。一方、「そう思わない」は、「子どもが遊べる公園が充実している」及び「産婦人科、小児科、病児保育が充実している」がともに2割台半ばとなっている。

東大和市で子どもを産み育てたいかについては、「思う」が6割を超えている。保育施設の利用にあたり重視することは、「保育内容」が6割近くと最も高く、次いで「自宅から距離」が5割台半ばとなっている。市で実施してほしい子育て支援事業は、「子どもの居場所」が4割を超えて最も高く、次いで「無料の学習支援」が3割台半ばとなっている。

◆公園の利用状況等について

公園の利用頻度は、「ほとんど利用していない」が5割台半ばと最も高く、次いで「月に1回以上」及び「週に1回以上」がともに1割台半ばとなっている。市内の公園施設（遊具等）に対する意見は「満足している」が3割台半ばと最も高くなっている。市内の公園施設（遊具等）で不満に思うことは、「特に不満はない」が4割台半ばと最も高く、次いで「遊具が少ない」が1割台半ばとなっている。市内の公園への要望は「特に要望はない」が6割を超えて最も高くなっている。公園の新設や改修を望む方の5割強が「未就学児童が安全に遊べる公園」を、

3割台半ばが「サッカーや野球などの球技ができる公園」を、3割超が「高齢者が利用できる健康遊具を設置した公園」を希望。家族に小学生以下のお子さんがある方に子供の外遊びの利用場所をたずねたところ「公園」が6割台半ばと最も高く、次いで「自宅等の庭」が3割近く、「商業施設」及び「幼稚園・保育園」がともに2割を超えている。

◆地域活動・地域コミュニティについて

自治会組織に期待する活動は「防犯、交通安全」が5割台半ばと最も高く、次いで「防災に関する活動」が4割を超え、「高齢者の見守り」が3割台半ば、「地域清掃、環境美化」が3割近くとなっている。

◆産業振興について

身近にほしい店舗は「病院・クリニック」及び「スーパーマーケット」がともに4割台半ばとなっている。次いで「書店」が4割を超え、「コンビニエンスストア」が3割台半ば、「パン屋」が3割を超えている。居住地区別でみると、【桜が丘】で「書店」が6割近く、【湖畔】で「パン屋」が5割を占め他の地区と比べて高くなっている。

◆家庭廃棄物について

リサイクル協力店の回収ボックスの利用は、「利用している」が6割近くとなっている。

◆ちょこバスについて

「利用している」が1割台半ばとなっている。

◆スマートフォン専用の観光・子育てアプリについて

「東大和スタイル」のダウンロードは、「していない」が9割台半ばとなっている。

◆健康・医療について

「健康づくりカレンダー」の認知度は、「知っている」が4割台半ばとなっている。

◆東大和元気ゆうゆう体操について

東大和元気ゆうゆう体操の認知度は、「知っている」が3割を超えている。

◆東大和市のブランド・メッセージについて

東大和市のブランド・メッセージの認知度は、「知っている」が2割台半ばとなっている。

…各項目の細かい調査結果や自由意見はとても興味深いものがありました。まず、ほとんどの回答者が学校教育の満足度が0ないしマイナスという点。また、市が「目玉」的に鳴り物入りで導入したアプリや市のPR 動画、ブランド・メッセージの認知度は低いという点も注目すべき。さらに市長が長年力を入れている職員の挨拶運動についても評価は低い結果となりました。この調査結果が市民の総意ではありませんし、ここで出た意見のみが正解だとはいえません。しかし、今回の結果を受けて、市は「本当に必要な事業」「効果的な方法」を再考し、取組みの方法の変更だけでなく、取組みの取捨選択にも活かすべき。また、市民が持つ広い視野も参考にすべきと感じました。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思えます。」



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。学校外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在3期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市長木 3-274-2-102